



波多利朗の Funky Goods

◎収集から着せ替えまで Psionシリーズを巡る もろもろの話題



イラスト: Ree(スタジオ・ぶ〜)

収集癖というのはタチの悪いもので、知らず知らずのうちにいろいろなものをたくさんため込んでしまう。かくいう筆者も収集癖が強いほうで、一時などはLD(レーザーディスク)収集に凝ってしまい、いつの間にか700枚近くためてしまった。

さすがに置く場所がなくなってきたので、最近になってそのほとんどを売却処分したのであるが、次に凝ったものが携帯端末収集だ。現状では謎P機をメインとして30台以上はあるはずだが、正確な数はわからない。これに加えて、歴代のジャンクコンピュータやジャンクパーツの収集にもハマリ、とうとう納戸と押し入れは日米湘南丹青状態になってしまった——と言えば、わかる人にはわかってもらえるであろう……。

しかし、最近は携帯端末趣味にも食傷気味で、ジャンクも以前に比べると面白いものがなくなってきたため、これらの趣味も収束に向かいつつある。これでようやく人並みの健康で文化的な生活が営めそうな気配がしてきた。

……のも束の間、今度はクルマにハマりそうだ。

クルマといっても軽自動車枠に収まってしまうようなちっちゃな旧車で、昨年HONDA BEATを購入したのをトリガとして、この記事を書いているいまも、FIAT 500Lがはるばるイタリアから船に揺られてやって来ているところである。いくら小さいとはいえ、ものがクルマだけに場所もと、経費もかかってタチが悪い。収集だけは絶対にやらないようにしようと肝に銘じているのだが……。どうもこの収集癖、一回死なないと直りそうにもない。

そんなある日、筆者の知人であり、一連のPsionシリーズ用簡易日本語エディタJEditの作者である柴隠上人稀瑠冥閻守

氏(Kerberos)氏は、いったい何台のPsionを所有しているのか?という素朴な疑問が湧いた。Psionシリーズに異常とも言えるこだわりを持っている同氏のことであるからして、きっと半端な台数ではないと思っていたのだが、いざ見せてもらうと出てくるわ出てくるわ……。

今回は、氏のコレクションも含めて、Psionについてのもろもろの話をしようと思う。

柴隠上人稀瑠冥閻守氏の Psion コレクション

柴隠上人稀瑠冥閻守(Kerberos)氏所有のPsionシリーズのEPOC OS系マシンをすべて出してもらったところ、その数実に17台にも上ったのである。その内訳はというと……。

- ・ Psion Series 3 2台
- ・ Psion Series 3a 3台
- ・ Psion Series 3c 5台
- ・ Psion 3mx 3台
- ・ Psion Siena 1台
- ・ Psion Series 5 1台

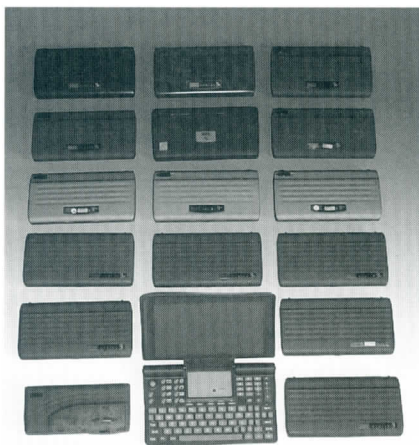


写真1 EPOC OS系マシン総出演。柴隠上人稀瑠冥閻守(Kerberos)氏のコレクション

- ・ Acorn PocketBook II 1台
- ・ GEOFOX One 1台
- 合計 17台

とまあ、こんな具合だ。氏に言わせるとPsionシリーズのなかで最も気に入っているモデルは、Series 3mxとSeries 3aとのことだ。まあしかし、これだけの数のEPOC OS系マシンが一堂に会するということはめったにないといってもよいのではなかろうか? さすが天下の奇人、柴隠上人稀瑠冥閻守(Kerberos)氏だけのことはあると、妙に感心してしまったのであった。

というわけで、Psionファミリー総出演といった趣で撮影したものが、写真1、2である。ちなみに、写真1のマシンの配置は下記のとおりである。

Series 3c	Series 3c	Series 3c
Series 3c	Series 5	Series 3c
Series 3mx	Series 3mx	Series 3mx
Series 3a	Series 3a	Series 3a
Series 3	Geofox One	Acorn
Siena		Series 3

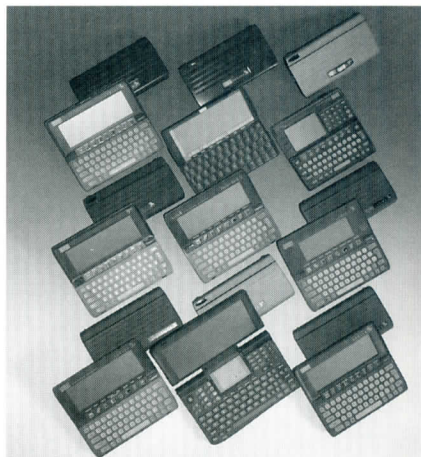


写真2 ちょっとカッコつけて撮影したEPOC OSマシン17台揃い踏み図



写真3 Psion Series 3cの外観。外装の肌触りが若干湿っぽいのが気になる

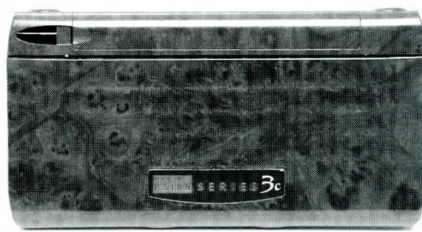


写真4 着せ替えセットその1。Walnut Shellの外観。木目調のもの



写真5 着せ替えセットその2。Carbon Fiber Shellの外観。アクの強さナンバーワン!

写真1 最上段の左と中央に置いてあるSeries 3cは、後述するPsion Series 3c用着せ替えセット、Replacement Casesに着せ替え済みのものだ。

以前本誌で紹介された、IBM PC-110を17台所有しているというのも強烈なものがあったが、これだけの台数のPsionを一度に見るというのも、なかなか異様な迫力がある。

Series 3c 用着せ替えセット Replacement Cases

Psion Series 3cの外装は、ご存じのとおりラバーコーティングされている(写真3)。この外装については評価が分かれるところだと思うが、筆者個人の趣味からすると、若干湿っぽい肌触りがして、あまり好きではない。

そういった方のために最適なグッズが、今回ご紹介する「Replacement Cases」、別名「Psion Series 3c用リカちゃん着せ替えセット」である。

イギリスにある携帯端末専門ショップ、WIDgET SOFTWARE 社から発売されているReplacement Cases for Series 3cを使

用すれば、Psion Series 3cを「ウォールナット仕上げ」および「カーボンファイバー仕上げ」に着せ替えることが可能となる。ちなみに、同社のホームページは下記のとおりである。

<http://www.widget.co.uk/widget.htm>
(画面1)

このページのなかで、下記ページに本製品が掲載されている。

<http://www.widget.co.uk/psion/painted.htm> (画面2)

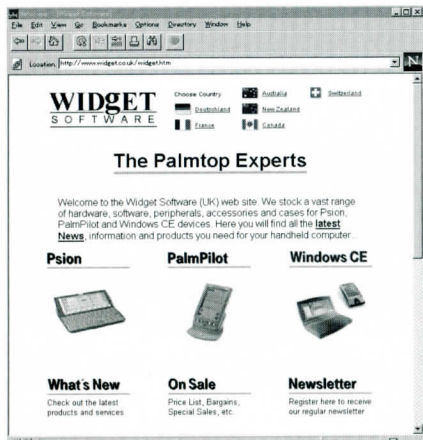
現在販売されているのは、木目調の「Walnut Shell」(写真4)と、あたかも蛇皮ハンドバッグのような「Carbon Fiber Shell」(写真5)の2種類だけであるが、ちょっと前のカタログには、全身クロームメッキのメチャカッコいい「Chrome Shell」(写真6)もラインナップされていた。筆者としてはこのクロームメッキが欲しかったのであるが、なんでも製造上のトラブルにより、現在は販売されていないとのこと。残念無念雷おこしである。

さてこのReplacement Casesであるが、対応している製品はPsion Series 3cのみであり、3aや3には使用できない。

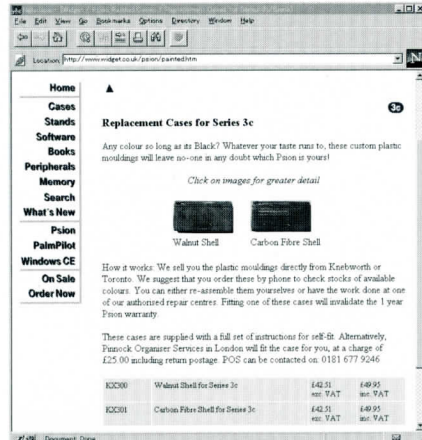
ケースは3つのブロックから構成されており、着せ替えるにはPsion Series 3cをいったん全バラした後、再度組み立てるといったかなりハードな作業が必要となる。しかも、インストラクションマニュアルはA4コピーが2枚のみで、図版、写真は一切ないといったものなので、性根を据えて作業にとりかかる必要がある。

まあ、以前チェコから購入したATARI Portfolio用の改造基板は、マニュアルすら添付されておらず、基板もダンボールに包まれていただけで、一切の静電対策が施されていないことを思えば、マニュアルが付いているだけマシといえばマシと言えるかもしれない。

さて、そのインストラクションマニュアルであるが、見るとぞっとするような内容だ(写真7)。まず驚かされるのが、作業行程の多さである。マニュアルには全57工程にも及ぶインストラクションが、すべてテキストでビッシリ書かれている。どこそこのネジをどう外して云々……といったようなことがすべて文字データだけで記載されているので、いざ着せ替えを行うとなると、まずよく読んで内容を理解してからでないと危ない。当然、酒に酔った状態での作業は自殺行為に等しい。



画面1 WIDgET SOFTWARE 社ホームページのトップ画面



画面2 Replacement Cases for Series 3cが掲載されているWIDgET社のページ

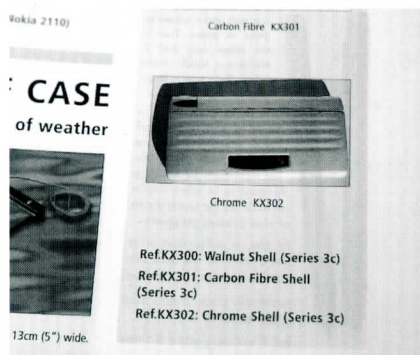


写真6 着せ替えセットその3。Chrome Shellのカタログ写真。残念ながらこの製品は、製造上のトラブルから販売中止になってしまった

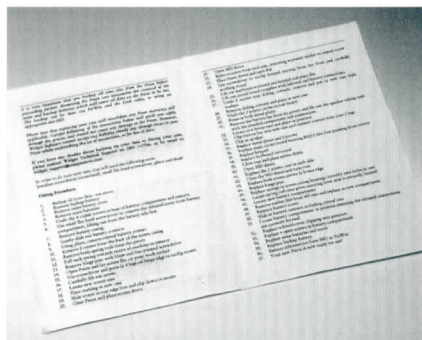


写真7 Replacement Casesのインストラクションマニュアル。文字のみ、図版ナシという、超親切マニュアル！

木目調といい蛇皮調といい、ちょっと筆者の趣味ではないのだが、他人とは違った Psion Series 3c を持ちたいというこだわりのある方は、ぜひチャレンジしてみていただきたいものである。ただし、ケースを開けて全バラしてしまうため、メーカー保証はおそらく得られなくなってしまうと思うが……。

WIDgET SOFTWARE 社での商品番号、商品名称と価格は表1のとおりである。

なお、この「Replacement Cases」の別名である「Psion Series 3c 用リカちゃん着せ替えセット」は、筆者が勝手に命名したものであり、この名称で WIDgET SOFTWARE 社に発注しても、おそらく100万年たっても入手できないので、念のため。

処理速度が大幅にアップした Psion Series 3mx

Psion 社の製品は、Series 5 が出た現在でも Series 3 系列が健闘しているそうである。確かに開発環境をとってみても、Series 3 系列のマシンのほうがソフト開発の際の敷居が低いし、いままでに出た多くのフリーソフト、商用ソフトのストックがあることも大きな強みとなっている。

そんな状況を反映してか、Psion Series 3 系列の最新製品として、Psion Series 3mx という製品が発売された(写真8)。

この製品、仕様上は Series 3c とほとん



写真8 Psion Series 3mx のパッケージ内容

ど変わらないのだが、CPU の変更による処理速度の向上が最大の特徴だ。Series 3mx には、その名のとおり、NEC 社製 V30MX CPU が使用されている。また、CPU クロックスピードも、Series 3c が 7.68MHz であったのに対し、約3.6倍アップの 27.684MHz に向上している。Psion Series 3a の CPU クロック (3.84MHz) に比べると、実に7.2倍のアップとなっている。

ところで、NEC 製 V30MX CPU だが、NEC 発行の半導体総合セレクション・ガイドによれば、「V30MX は V20HL/V30HL とソフトウェア互換性を保った CPU で、セルベース IC 専用に高速化、メモリ拡張をしたオリジナル・マクロです。」とある。すなわち、V30MX という名称の石があるわけではなくて、ASIC 用の CPU コアとして用意されているということである。

V30HL との相違点だが、V30HL はアドレスバスとデータバスとがマルチプレクスされていたが、V30MX では分離して出力されている。また、V30HL にあった μ PD8080AF エミュレーション機能が、V30MX では除かれている。

さて、Psion Series 3mx だが、他の Series 3 系列製品と比較すると表2のようになる。

一番の相違点は、ケースの手触りであろう。前述したように、Psion Series 3c は

ケースがラバーコーティングされており、手に持った感じは若干湿っぽい。一方 Series 3mx はラバーコーティングなしのグレーなので、手触りが良い。思わず頬にスリスリしたくなるような感触だ——というともまるで変態だな。

操作してみると、その処理速度の速さに驚く。非常に快適だ。CPU のクロックアップの恩恵がモロに出ているといったところだ。

なお、Series 3c にはなかった機能として、プロセッサスピードコントロール機能がある。これは、過去のソフトウェアとスピード面での互換性を保つために用意されているもので、Control+◆キーを押すことで、トグル操作でスピードを2段階にコントロールできる。スピードダウンに設定すると、液晶画面上に「SLOW」アイコンが表示される(写真9)。

通信ポートのボーレートも改良され、最高 115200bps まで設定可能となった。

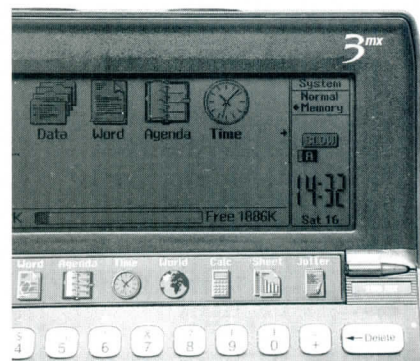


写真9 プロセッサスピードを SLOW に落とすと、画面上に「SLOW」アイコンが表示される

◎表1 WIDgET SOFTWARE 社の製品構成

商品番号	商品名	価格
KX300	Walnut Shell for Series 3c	£ 49.95
KX301	Carbon Fiber Shell for Series 3c	£ 49.95



ただし、PsiWin 1.Xを使用している場合は、最高速度は57600bps止まりとなる。

バックアップバッテリーは、従来はCR1620という、若干特殊な型番のボタン電池を使用していたのが、より一般的なCD2025に変更されており、入手しやすくなっている(写真10)。CR1620を置いてあるショップは意外に少ないため、ネットの掲示板でも「いったいどこで入手できるのか?」といった話題が掲載されたこともあったほどだ。

その他の機能はほとんどSeries 3cと同一であるので、製品に添付されてくるマニュアルはSeries 3cのものを流用しており、3mxでの相違点を別ページで追加したものとなっている。

ソフトウェアの互換性は高く、柴隠上人 稀瑠冥閻守(Kerberos)氏制作の簡易日本語エディタJEditシリーズは、いずれも問題なく動作する。試しに下記のJEditを

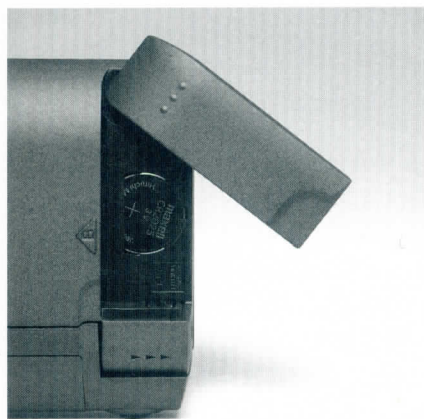


写真10 より一般的なCR2025に変更された、Series 3mxのバックアップバッテリー

導入してみたが、いずれも問題なく動作した。

- ・ JEdit Ver. 2.5.0 β (10 Aug 1998): いわゆる普通のJEdit (写真11)

- ・ JEdit24 Ver. 2.5.0 β (10 Aug 1998): 24ドット版JEdit。老眼仕様 (写真12)

- ・ JEditS Ver.2.5.0 β (10 Aug 1998): Psion Siena用JEdit。液晶画面が小さいSeina用なので、画面の左部分のみの表示となる (写真13)

- ・ JEditS14 Ver.2.5.0 β (10 Aug 1998): Psion Siena 用 14 ドットフォント版JEdit (写真14)。表示は同じく画面左部分のみとなる

- ・ JEditW Ver.2.1.8 β (25 May 1997): Psion Walkabout 用JEdit。画面はさらに狭くなるが、動作可能 (写真15)

画面の小さいSeina 用や Walkabout 用



写真11 いわゆる普通のJEditの画面写真

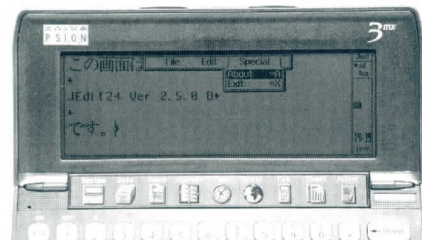


写真12 老眼仕様の24ドットフォント版JEditの画面写真

のJEditも小さな画面で動作してしまうところがユニークなところである。

なお、筆者はこのPsion Series 3mxをWIDGET SOFTWARE社から購入したが、最近ではアキバのショップでも販売しているようである。興味のある方は購入してみてもいかがだろうか?



写真13 Psion Siena用JEditをSeries 3mx上で動作させたところ



写真14 Psion Siena用JEdit14ドットフォント版をSeries 3mx上で動作させたところ



写真15 Psion Walkabout用JEditをSeries 3mxで動作させたところ

◎表2 Psion Series 3a、3c、3mxの仕様比較

モデル名	Psion Series 3a	Psion Series 3c	Psion Series 3mx
CPU	V30H(3.84MHz)	V30H(7.68MHz)	V30MX(27.684MHz)
搭載メモリ容量	1MB ROM、2MB RAM	2MB ROM、1MB/2MB RAM	2MB ROM、1MB/2MB RAM
ディスプレイ	480×160ドット (米国仕様はバックライト付)	480×160ドット (バックライト付き)	480×160ドット
アクティブエリア	126×45mm	126×45mm	126×45mm
キーボード	Qwerty 58 Key	Qwerty 58 Key	Qwerty 58 Key
I/Oポート	シリアルポート×1 (Max 19200bps)	RS232Cポート×1 IrDAポート×1	RS232Cポート×1 IrDAポート×1
サウンド機能	8ビット/11kHz PCM	8ビット/11kHz PCM	8ビット/11kHz PCM
本体重量	275g(バッテリー込み)	275g(バッテリー込み)	275g(バッテリー込み)
メインバッテリー	単三乾電池2本	単三乾電池2本	単三乾電池2本
サブバッテリー	CR1620	CR1620	CR2025
メモ리카ード	SSD Drive×2	SSD Drive×2	SSD Drive×2
外形寸法	163×85×23mm	165×85×22mm	165×85×22mm
OS	EPOC	EPOC	EPOC